

平成25年度 事務事業マネジメントシート

事業名	中学校校舎等改修事業			会計	款	項	目	大	小
政策	03	3節	学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）	主管課	教育総務課				
施策	3-2	個性を生かす教育環境の基盤充実		主管課長	武田 淳				

事務事業の目的・内容

事業目的	対象	中学校の生徒、教職員及び学校施設利用者	意図	施設の改修、機能低下の改善等の実施による学校施設環境の維持、保全
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>校舎、屋内運動場等の建物及び設備について、経年劣化、機能低下が発生している箇所の修繕</li> <li>7月に各学校からの修繕要望書に基づき現地調査を行い、修繕する箇所、内容を決定</li> <li>次年度へ予算要望し、査定に通った事業を実施</li> </ul>			
事業開始から現在までの状況変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>他事業と連携し、施設の老朽、劣化状況に基づき優先的に改修を実施</li> <li>学校が気付きにくい設備関連の老朽化が深刻な状況であり、継続的な改修が必要</li> <li>各学校からの改修要望は多く、緊急性、危険性があるものを以外は、対応出来ていない。</li> </ul>			

事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
指標	改修工事件数	9	4	4	件		
	修繕件数	0	0	0	件		
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） ・恒常的業務であることから、成果目標を設定することが困難。 ・改修要望では、美観的要望も多いが、優先度は低い。 ・修繕内容により、事業費用は大きく変動することから、コストによる評価はなじまない。 ・改修にあたり、改修要望と老朽化状況について、客観的な評価指標が必要。
事務事業のコスト		平成23年度	平成24年度	平成25年度			
事務事業の総コスト(a=b+c)		25,053,572	15,975,354	18,570,320			
事業費（b）（円）		24,482,850	15,530,497	18,478,530			
うち一般財源		24,482,850	15,530,497	18,478,530			
職員給与費(c)(円)		570,722	444,857	91,790			
人役・職員(人)		0.07	0.06	0.01			
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)		0.02	0.01	0.02			
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト（円）（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 < 主管課長記入 >

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
総合評価	拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

今年度(H25)の改善計画	学校の実情に合った改修計画及び計画的な設備の更新
今年度(H25)に実施した取り組み	各保守点検業務での指摘事項をもとに計画的な改修・設備更新を実施

取り組みの課題	改修・更新が必要な施設や設備は多いが、全てに対応することが難しい。
今後の改善計画	施設や設備の劣化度を見極め、優先順位を付けながら計画的に改修を実施していく。